

平成 29 年 2 月 9 日

東京都知事 小池百合子様

日本ゴルフ改革会議  
参議院議員 松沢成文

## 2020年東京オリンピックゴルフ競技会場を「若洲ゴルフリンクス」 へ変更することの費用及び運営面における合理性について

小池知事におかれましては、去る2月3日の私たち日本ゴルフ会議との面会に際し、東京五輪のゴルフ会場に決定している「霞ヶ関カンツリー倶楽部（以下『霞ヶ関CC』）」が抱える女性差別や、暑さ、アクセス、開催経費、レガシーなどの問題点の数々について丁重に耳を傾けていただくとともにご理解を賜り誠にありがとうございました。

現在では、小池知事も疑問を呈されたように、霞ヶ関CCの運営面での女性差別が五輪憲章に反することから、国際オリンピック委員会より改善要請が出され、これへの対応が注目を集めています。この問題が人権にもかかわる非常に重要なことであることは改めて申し上げるまでもありません。しかし、質は異なりますが、同様に根本的な問題が置き去りにされていることを私たちは危惧しています。

それは、なぜ「若洲ゴルフリンクス（以下『若洲GL』）」ではいけなかったのかということです。

この度、ゴルフ場の設計・施工・運営において経験と実績を有する外部の専門家の助力を得て試算・検討した結果からも、東京都が所有するパブリックコースである若洲GLこそが最も五輪開催コースにふさわしいと確信するに至りました。

そこで、以下にその客観的データをお示しつつご説明します。

### 1、本当に若洲GLは狭いのか？

2012年2月に提出された申請ファイルには、ゴルフ競技開催コースとして若洲GLが記載されたものの、翌2013年の立候補ファイルでは霞ヶ関CCへ変更されました。

その最大の理由として、ゴルフ競技会場の決定権を有するNF（ナショナルフェデレーション）である日本ゴルフ協会（以下「JGA」）とその関係者のみならず、丸川オリパラ担当大臣やその他歴代の大臣までも、若洲GLが、世界ゴルフ連盟（以下「IGF」）の基準やJGAの選考基準が求める面積基準に不足していることを挙げています。果たしてそれは本当なので

しょうか？

そこで、まず上記の IGF の基準と JGA の選考基準の内容を確認してみます。

(1) IGF のデザイン基準 (以下「IGF 基準」)

ア 競技エリア…コース長 5,700m～6,270m、エリア面積 35ha

イ 観客収容スペース…25,000人収容

ウ 放送施設設置エリア…約7,000㎡

エ 駐車スペース…約10,000㎡

※東京都からの聞き取りに基づき、文部科学省が作成した文章より

(2) JGA オリンピックゴルフ競技対策本部 2020 東京招致委員会の選考基準概要 (以下「JGA 基準」)

ア 過去より国際試合、JGA オープン競技等メジャー大会の開催実績があること。

イ 競技方法・規程・施設規模等は現時点では未定であるが、オリンピック競技として勘案した場合、下記条件を満たすクラブである事。

(ア) 世界のトップアスリートの最高の技術を引き出す事の出来るコースレイアウトとセッティングが可能であるコース。

(イ) 大収容できるメディア施設、駐車能力、その他付帯施設(各種ブース・ホスピタリティ)等、クラブハウス及びコース周辺に対応できる広さがある事。この条件を満たすには、36H以上保有するクラブが望ましい事。

ウ 選手の移動・ギャラリー観戦を考慮して、晴海から50km以内、又は1時間以内にコースが立地している事。

エ ギャラリー収容能力は1日当たり15,000人～20,000人規模が予想され、興行的にもチケットの売りやすいアクセスと観戦環境、運営上安全性が見込めるコースである事。

※週刊パーゴルフ 2017/1/24・31 合併号 P-30「東京五輪開催コース 霞ヶ関 CC 決定の全真相！」及び日本ゴルフ協会オリンピック対策本部 2020 東京招致委員会第1回会議議事録より

これらの基準の中で明確な面積(広さ)に関する基準は、IGF 基準のア～エの全て、並びに、JGA 基準のイ(イ)及びエとなります。

個別の基準で評価する前に、まず、若洲 GL と霞ヶ関 CC 双方の利用可能な敷地面積を比較してみます。【別紙1】をご覧ください。若洲 GL は西側に広く隣接する利用可能な都有地と、

江東区立若洲公園を含めて全体で101ha。これに対して霞ヶ関CCは競技コースとなる東コースと狭く隣接する西コースを合わせて131ha。単純な面積比でも1.3倍程度、競技コースと隣接地の連携の有効性を考慮すると、どちらが優れているか甲乙付け難い評価となります。ちなみに後に述べますが、競技コース部分で比較すると逆に若洲CCの方が1.3倍程度広くなります。

では、先ほどの基準を若洲GLはクリアしていないのか個別に検証していきます。

## (1) IGF 基準

### ア 競技エリア…コース長5,700m~6,270m、エリア面積35ha

現況6,906y(6,314m)でもクリアしていますが、JGA基準イ(ア)を勘案して、【別紙2】のように各ホールを改良することで300y延長し、7,206y(6,589m)とすることができます(霞ヶ関CC東コースでは7,466yへの延長が既に完了しています)。また、驚くことに競技エリアの面積では、【別紙1】のとおり、改修せずとも若洲GLは、霞ヶ関CC東コースの61haを上回り、1.3倍程度の78haにもなります。

### イ 観客収容スペース…25,000人収容

立候補ファイルでは霞ヶ関CCの観客席は1000席、立見は24,000人とされています。

【別紙3】のとおり、若洲GLでは霞ヶ関CCの2.5倍の2,500席の仮設観客席を優に設けられます。収容人数は日本オープンクラスの大会でも最大で1日15,000人程度であることを考えると、果たして25,000人もの観客を想定する必要があるのか疑問ですが、仮にそうだとした場合も霞ヶ関CCの1.3倍ほどのコース面積があるので問題にはなりません。

### ウ 放送施設設置エリア…約7,000㎡

有明地区の国際放送センター(IBC International Broadcasting Center)とメインプレスセンター(MPC Main Press Center)から若洲GLまでは直線距離で4kmほどしか離れておらず、放送施設はさほど大きなものが必要とされないように思われますが、【別紙3】のとおり確保することができます。

### エ 駐車スペース…約10,000㎡

IGFからは320台程度の駐車場を求められているとも聞きますが、【別紙3】のとおり、若洲GLでは利用可能な隣接地を含め600台分もの既存利用の駐車場があり、

さらに都港湾局所有の遊休地を利用すれば合わせて2600台分程度のスペースを確保することができます。

約10,000㎡の駐車スペースを優に上回ることは申し上げるまでもありません。

## (2) JGA 基準

イ 競技方法・規程・施設規模等は現時点では未定であるが、オリンピック競技として勘案した場合、下記条件を満たすクラブである事。

(イ) 大収容できるメディア施設、駐車能力、その他付帯施設（各種ブース・ホスピテント）等、クラブハウス及びコース周辺に対応できる広さがある事。この条件を満たすには、36H以上保有するクラブが望ましい事。

【別紙3】及び【別紙4】のとおり、利用可能な近隣用地を活用することにより、求められる付帯施設を全て配置することができます。若洲GLは18Hですが、そもそも「36H以上を保有することが望ましい」とされる基準に合理的な理由はありません。なお、昨年のリオ五輪でゴルフ競技会場となったレセルバ・マラペンディゴルフコースも18Hでした。

エ ギャラリー収容能力は1日当たり15,000人～20,000人規模が予想され、興行的にもチケットの売りやすいアクセスと観戦環境、運営上安全性が見込めるコースである事。

IGF基準イで述べたように若洲GLのギャラリーの収容能力に不足はありません。

さらにアクセスでも、選手村から直線距離で44km、実質距離57kmの遠隔地であり、車でも1.5時間～3時間要し、電車でのアクセスも悪い霞ヶ関より、選手村から6km、複数の最寄り駅もあり東京駅や羽田空港から車で15分の若洲GL。

観戦環境と運営上の安全性では、過去3年間の最寄りの観測所での開催時期の平均気温が35度を超え、風が吹かず、熱中症で死者が出る可能性も指摘される霞ヶ関CCに対し、同31度で海風が吹く若洲GL。また、霞ヶ関CCが位置する埼玉県は夏場の雷が多く、不幸なことに開催時期と重なる昨年8月4日に、近くにある川越南高校で試合中の野球部員が晴れ間の落雷に打たれるという事件が発生し、気象条件は極めて悪いのが実状です。

以上から、若洲GLは、面積に関する基準の全てをクリアしており、霞ヶ関CCを上回る評価すら可能なことがお分かりいただけると思います。

## 2、若洲GLでは大規模改修のための莫大な費用が必要か？

これまでの JGA オリンピックゴルフ対策競技対策本部や東京都の担当者の発言をまとめると、「五輪のゴルフ会場には広大な敷地が必要である。若洲 GL でやるなら狭すぎるから、大規模な埋め立てをして道路を移設しなければならず 1000 億円はかかる。それは無理なので霞ヶ関 CC しかない」という理屈です。

これも間違っています。

私は、ゴルフ競技やコース設計・造成の専門家の協力を仰ぎ、実際に若洲 GL で開催した場合に必要な費用を試算することにしました。その結果は以下の各別紙記載の通りです。

既にご紹介のものと一部重複しますが、【別紙 1】～【別紙 6】までのプランに基づいて要する費用の試算をまとめたものが【別紙 7】になります。

- ・【別紙 1】敷地面積ポテンシャル
- ・【別紙 2】競技コースの延長に必要な改良案
- ・【別紙 3】付帯施設及び仮施設を含む周辺用地活用案
- ・【別紙 4】クラブハウス周辺改良案
- ・【別紙 5】クラブハウス改修案
- ・【別紙 6】周辺景観
- ・【別紙 7】費用試算表

ここで【別紙 7】をご覧ください。あくまでも現時点での試算ですが、ゴルフ場改修費用が 4.9 億円、付帯施設 8.9 億円、仮設／運営費 3.8 億円、その他 3 億円、で合わせて総費用 20.6 億円となりました。

昨年末に組織委員会が公表した開催費用 1兆6,000 億円～1兆8,000 億円のうち、霞ヶ関 CC でのゴルフ競技に要する費用は未だ明らかにされていません。しかし、東京都以外に設けられる仮施設の費用について都道府県ごとに話し合う作業が現在行われていますが、この中で、霞ヶ関 CC の仮設費用として 39.5 億円との試算額が報道されています。これには、高速道路の専用レーンを設置することによる補償費や警備費などの費用は含まれておらず、果たして総額でどの程度に上るのか全く見当がついていません。

既に、霞ヶ関 CC が自前で 10 数億円を費やすコース改修工事はほぼ終了していますが、これはオリンピックのために行われるのではなく、当初からの改修計画に基づいて行っているとされており考慮には入りません。

そこで現時点で言えるのは、若洲 GL では大規模改修のための莫大な費用は必要なく、  
・高速道路の専用レーンを設置することによる補償費や休業を強いるための営業補償費、さらに警備費などの運営費を含まない仮施設費用だけで霞ヶ関 CC は 39.5 億円にも上る

一方、若洲 CC はこれら全てを含むゴルフ競技開催費用として 20.6 億円程度で済むこと  
になります。

・また、この場合、恒久施設の整備費用として都が負担することになるゴルフ場改修費用 4.9 億円は、現状でも年間 2～3 億円と推測される若洲 GL の収益を充てることにより、短期間で回収することができます。五輪開催後にパブリックコースであるゴルフ場が広く国民に開放されるだけでなく、投資を数年で回収し終わった後は、都の収入として都民に還元されることになるのです。

### 3、若洲の改修は 2020 年に間に合わないのか？

かつて若洲 GL での五輪開催を支持していた日本プロゴルフ協会の倉本昌弘会長は、現在では「1 年くらい早ければ可能性はあったが、今から会場を変えて、設計者を決め、工事をやっていると 2020 年に間に合わない」と指摘しています。その理由として、「ギャラリーを十分に受け入れるスペースが不足している、埋め立ての造成地に立地しているため地盤が弱く重機などの搬入に不安がある、芝の管理にも通常のゴルフ場より手間がかかる、」ことから大型の改修が必要なことを挙げています。

しかし、既に述べた改修案のように、コース延長の改造、近隣遊休地での付帯施設建設、クラブハウスの改修で済ませれば概ね 1 年以内で完成する見通しとなります。加えて、コース改良工事も全て外周と中央縦断道路から行えるため、ゴルフ場の営業に支障ありません。

実際に何も無いところへ新設したりオ五輪のレセルバ・マラペンディゴルフコースですら、建設工事の中断期間を含めても 2 年半ほどで完成しています。

このように、若洲 GL の改修工事は、まだまだ時間的余裕が確保されており、今年中に決断すれば五輪開催に十分間に合います。

### 4、不自然かつ不合理な会場決定経緯について

今回は若洲 GL へ会場を変更した場合のプランと経費を明らかにし、その合理性をご説明する趣旨であることから、ゴルフ競技会場の決定経緯の問題は敢えて長々と申し上げません。

しかし、2012 年 2 月に提出された申請ファイルにはゴルフ競技開催コースとして若洲 GL と記載されていたにもかかわらず、翌 2013 年の立候補ファイルには霞ヶ関 CC が記載されるに至る中でポイントとなった基準と結果の妥当性についてのみ簡単に触れたいと思います。

委員である松沢成文参議院議員は、国会質疑で 9 回、この東京五輪のゴルフ競技会場問題を取り上げてきました。この中で繰り返されたのは、昨年 10 月の参議院予算委員会での丸川オリパラ担当大臣の答弁に代表されるように「IGF の基準の照らして具体的に (JGA が)

選考基準を決定した上で候補地の選定を行ったので手続き的に問題はない」というものでした。

しかし、JGA内に設置された「オリンピックゴルフ競技対策本部2020東京招致委員会」が任意に定めた基準で判断し、申請ファイルに記載されながらも理由すらあいまいなまま、若洲 GL が真っ先に除外されることとなったのです。このときには、大臣が認識しているような IGF の基準といった客観的に参考になる指針はまだ示されていませんでした。このことから分かるように、透明性が確保されない中で少数の利害関係者により若洲 GL から霞ヶ関 CC へ変更されたとの指摘には、十分な理由があると言えます。

以上、東京五輪のゴルフ競技会場を「若洲ゴルフリンクス」へ変更することの費用及び運営面における合理性について、具体的な試算を踏まえて検討しご提言いたします。

日々公務でご多忙とは重々承知していますが、先日、面会をさせていただいた際にも申し上げましたとおり、ぜひ東京都が誇るパブリックコース若洲 GL を視察された上で、経費節減と都民への利益還元の観点から、改めてゴルフ競技会場変更に向けてリーダーシップを発揮していただきますよう心よりお願い申し上げます。

以 上